

実効性ある計画策定を要請

「奥薩摩構想」の調査

平成16年6月10日委員会を開き、平成13年度から県の「21世紀新かごしま総合計画」に位置づけられている「奥薩摩・水と緑の郷づくり構想」の関連整備等について、建設課長、企画開発課長

の出席のもと調査を実施した。なお、鶴田ダム周辺の環境整備とも関連があり、同管理所長、管理係長からも状況説明を受けた。

今回、鶴田ダム周辺の環境整備状況、県道鶴田



国土交通省で整備された「へらぶな岬」写真右側は鶴田ダム

大口線等の整備状況に絞って調査したところ、関連的な意味合いをもつ鶴田ダム周辺の環境整備状況を

経済建設常任委員会

除けば、「県道鶴田大口線は要望しているが、事業化のメドはたっていない」など、地域間交流を担う交通体系の整備、広域的な観光ネット

ワークの形成を図るためには重要な路線であるにもかかわらず、未だ構想の域を脱せず、実施計画の策定等には至っていない状況である。

同構想の全体的な推進については、本町の第4次総合振興計画にも位置付けてあり、施政方針においても、その必要性を掲げている。また、過去数回一般質問がなされ、その整備方針等を問いただしてきた経緯がある。

本委員会は、全体的な

推進については同構想の前期計画期間の到来を間近に控えていることから、「実効性のある計画策定」に向けて鋭意努力を傾注するよう要請する。その中でも、県道鶴田大口線の整備は重点課題であるので、これまで経緯からしても整備が難しいのであれば、観光ルートとして離合場所や湖面が見える場所の整備を関係機関に要望しながら、同路線の早急な整備促進に取り組むよう要請する。

濁水の発生防止対策を要請

終野の採石場調査

平成16年6月24日委員会を開き、南国採石(株)の採石生産過程等における流末処理について調査し、現在の状況や今後の対策等について、取締役業務部長、工場長より説明を受けた。

今後、数十年にわたり採石を予定されており、

3〜5年周期で削る場所を変えるとのことである。今後とも下流域住民の農業生産活動への影響が危惧されるとともに、それによる住民の不安も大きいことから、早い時期に住民との対話の場を設けて周知と理解に努められたい。

また、濁り対策として、現在行っている対策のほかに、別の対処法も考えられているとのことであり、今後恒常的な濁りの発生防止について早急な対策を講じられたい。

行政においても、被害等について十分把握され、行政区である宮之城町の所管課とも連携を取り、適切な処置を講じられるよう要請する。

後編集

今年の梅雨は雨量が少なく災害は発生しなかったものの、水不足で水稲作付・管理等に大変苦労されたことと
思います。

3町合併は、廃置分合議案の可決を受け、7月1日に県知事に申請され、いよいよ秒読み体制に入りました。

議会としては、合併までの残された期間とはいえ、あらゆる共通課題に丸とらなって取り組み、住民の期待に応えるべき責務を感じる
ところでは、

- 平成16年7月
- 発行責任者 東 哲雄
- 編集委員長 宮之脇金次郎
- 副委員長 四位 芳彦
- 編集委員 高嶺 実樹雄
- 編集委員 川口 憲男
- 編集委員 下大迫幸太郎
- 編集委員 中尾 正男